

ほっかいどう N I E 通信

Newspaper in Education



発行 北海道 NIE 推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

考え深め発信する力を

秋田で全国 N I E 関心集めた ICT

第20回 N I E 全国大会が、7月30、31の両日、秋田市内で開かれ、全国から教育・新聞関係者ら約千人が参加した。「問い」を育てる N I E 思考を深め、発信する子どもたち」をスローガンに、パネルディスカッションや公開授業、実践発表を通して交流と議論を深めた。(関連記事2面)

30日の全体会では、秋田県 N I E 推進協議会会長の阿部昇秋田大教授が基調提案。教育評論家の尾木直樹法政大教授は、記念講演で約40年間にわたり新聞を授業で活用した経験を語り口で、会場を沸かせた。教育、新聞関係者4人に

よるパネルディスカッションでは、新聞社と学校、学校と家庭、小学校と中学校などさまざまな場面での連携の事例が報告された。31日は12の公開授業・実践発表、二つの特別分科会を実施。N I E と情報通信技術(ICT)の融合をテーマにした特別分科会



31日の公開授業には、いずれの会場にも多くの人が訪れ、熱心に見守った

は、電子新聞の記事を会員制交流サイト(SNS)で共有する手法などが紹介され、遠隔地の学校同士の連携など新たな可能性について議論した。学力と新聞活用をテーマにしたミニシンポも特別分科会として開催。全国学力テストでトップクラスの成績を収める秋田、福井両県の中学校教諭が報告した。

水産、作文多彩に実践

N I E セミナー 北見、稚内などで開催

N I E 地区セミナー(北海道 N I E 推進協議会主催)が6月に北見、7月に稚内で開催された。このほか、小樽では小樽市教委が独自研修として「N I E 講座」を実施した。(関連記事3、4面)

北見では第13回 N I E 北見・オホーツクセミナーが6月26日、市立緑小を会場に開かれ、オホーツク管内の

の中小高校の教員ら約30人が参加。水産業をテーマに新聞を活用した公開授業や、実践発表が行われた。稚内では第5回 N I E 稚内・宗谷セミナーが7月16日、稚内市の稚内高校で開かれ、留萌、宗谷管内の教育関係者ら約30人が参加した。稚内高の「国語表現」の公開授業で、北海道新聞の小中高生向け投稿欄の掲

次号は11月発行

「ほっかいどう N I E 通信」は、今回の第77号から季刊となります。次回78号の発行は11月25日です。

21世紀型学力 N I E は有効

阿部教授・基調提案

阿部昇秋田大教授の基調提案の要旨は次の通り。

◇

いま求められている「21世紀型学力」とは、従来型の「知識としての学力」から「情報を分析して批判的に考え判断する学力」に変わってきている。N I E は、こうした学力との親和性が高く、有効な手法だ。新聞は政治、社会から芸術、スポーツまで、幅広い分野にわたって最先端の情報を扱う。またニュースのほか社説、コラム、投書、マンガ、広告など多様な要素を併せ持つ。情報比較や賛否の発表など、全教科、全教育活動で活用できる。

新聞は親しみを持つ一方で、迎合せず、時には「厳しい読者」であることが重要な。厳しい読者が新聞の質を保障する。新聞社も読者に迎合せず、新聞と教育がより強く結びつくことを願う。

阿部教授は11月21日開催の「北海道セミナー」(札幌)で基調講演を行う。

載文を例に、生徒たちが作文に取り組んだ。

また8月4日に第4回北広島セミナーが同市芸術文化ホールで、21日に第1回後志セミナーが喜茂別町の喜茂別中学校で行われた。後志では初の開催となった。

学校と新聞 垣根低く

大会全国
大返り振

育みたい豊かな「問い」

パネル
討 論NIE全国大会(秋田市)
の初日に開かれたパネルデ
ィスカッションでは「NIE

パネリストを務めた(左から)小原友之さん、京野真樹さん、小室真紀さん、大石卓見さん

Eで豊かな「問い」をどの
ように育てるか」をテーマ
に意見交換した。
秋田県教育庁の京野真樹
指導主事は「新聞は自分と
は縁遠い世界と子供たちを
結びつける、格好の教材」
と話し、秋田大付属小の小
室真紀教諭は新聞記事を題
材に、4種類の桜の写真を
比較した授業を報告した。
秋田魁新報社の大石卓見
NIE推進部次長は「取材
の疑似体験の時、新聞を読
む子と読まない子では物事
を読み取って気づくレベル
が違う。先生方に、新聞社
を有効活用してもらいた
い」という。日本NIE学

会会長の小原友行広島大
学院教授は「秋田では学校
と新聞のコラボのほか行
政、教育委員会、研究者の
ネットワークがある。先生
たちが自信をもって授業に
取り組んでいる」と分析し
た。
会場との質疑応答で、小
原教授は「問いを一つ出せ
ば終わりでなく、問い続け
ることが大事。そんな子供
を育ててほしい」と期待を
述べた。コーディネーター
を務めた阿部昇秋田大教授
は「秋田の教育の強みは『つ
ながり』。学校と新聞界の
垣根をより低くすることが
必要」と締めくくった。

中学で新聞活用
共同研究を出版

北海道新聞NIE推進セ
ンターと北海道教育大学釧
路校によるNIE教育につ
いての共同研究の成果が、
報告書「新聞を活用する教
育 中学校社会科の授業づ
くり」Ⅱ写真Ⅱとして7月



1日、共同文化社(札幌)
から限定出版された。
釧路校の藤本将人准教授
ら3人と釧路管内の中学教
諭7人が2012、13の両
年度、中学校に適した新聞
活用方法を研究、開発した。
4部編成で、授業での実践
事例も紹介している。
A4判、180ページ。
1冊2千円(税別)で、4
00部発行。釧路校で
夏季講座の教科書に活
用されるほか、釧路校
の生協で取り扱ってい
る。問い合わせは北海
道新聞NIE推進セン
ター ☎011・210・
5802へ。

梅雨明けを迎え、真夏の
日差しが照りつける秋田市
で開幕した第20回NIE全
国大会。県内外から約千人
もの教育・新聞関係者が参
加するなど、全国学力・学習
状況調査の学力が日本一と
も称される秋田への関心の
高さを窺えた。



喜茂別町立喜茂別中教諭 山田 耕平

今大会のスローガンは、
「『問い』を育てるNIE」
思考を深め、発信する子ど
もたち」である。1日目の
基調提案では、新聞と教
育との関わりにおいて、
「21世紀型学力」を養い、
『主権者教育』を行ってい
くうえで、新聞が教材とし

て果たす役割は大きい」と
述べていた。中教審答申で
も提案されているように、
新たな教育課題である「ア
クティブラーニング」の充
実を図っていくうえで、新
聞の教材としての重要性を
再認識した。

そして、尾木直樹・教育
評論家/法政大学教授によ
る講演では、子どもが興味
く感じた。

探求型授業 新聞の意義を実感

た。1校は、
2015秋田

のある記事を切り抜いて貼
り、自分の意見を書き込む
「書きなれノート」による
実践が紹介された。自分の
面白いと思う箇所に「波
線」、何を言っているかわ
からない箇所に「?」、自
分の意見とは違うと思う所
には「×」を付けるという
ものである。尾木先生は、

「読むことで心が動く。
1カ月もすると、マージン
グだけは飽き足らず、自分
の心の動きを書きたくな
る」と話していた。これ
が、「子どもたちの表現す
る意欲を高める工夫」なの
である。教科経営や学級
経営の柱の一つとして、す
ぐにでも実践したいと強
く感じた。

行政、教育委員会、大学が
一体となった「ネットワー
ク」である。これは、どの
学校も抱えている問題の
一つであろう。「一枚岩」
となつて子どもたちを育
っている秋田の教育力の
強みを感じた瞬間であつ
た。

2日目には、二つの中学
校の公開授業に立ち会っ
た。1校は、
「東北六魂祭
2015秋田」
が始まったことを伝える
号外に見出しを付ける」中
学2年国語科の授業であ
る。子どもたちは、記事や
写真を根拠に、学級全体で
意見を交換しながら、より
適切な見出しを吟味する
など、課題解決に向けて、
主体的・協同的に学習する
様子が随所に見られた。

もう1校が、「秋田県に、
新しいゆるキャラが必要
か否かを考える」中学3年
国語科の授業であった。
コラムを読んだ後に、必要
か不必要かの立場を決め、
意見を交流していく実践
である。この授業では、導
入において、記者の考えも
含むコラムを読むことで、
異なる意見を意識しなが
ら、自分の考えを広げる目
的で新聞が活用されてい
た。

今回の大会を通して「子
どもたちの多様な見方や
考え方を引き出し、探求型
授業を実践していく」う
えで、NIEの今日的な意義
の大きさを強く実感した。
「問いの宝庫」である新聞
記事を通して、「豊かな問
い」を育てていきたい。

「これって楽しい」。スポーツやアニメなど、好きな記事を親子で切り抜く



いつでも、どこでも、だれでも

気に入った新聞記事や新聞広告を数人のグループで切り抜き、紙に貼り込んで楽しむ「まわしよみ新聞」。この新しい「メディア遊び」の発案者、陸奥賢(さとし)さん(大阪府)を招いての道内初の「編集長養成講座」が、7月17日に北海道新聞本社(札幌)のDOOBOXで開かれた。

「まわしよみ新聞」は「いつでも、どこでも、だれでもできる」を合言葉に、陸奥さんが3年前に考案。自分が選んだ記事を発表し合う、相手の意見を否定しないなどのルールがあり、寺やコミュニティセンター、地域イベントなどで「話が弾む」「視点が広がる」と好評を得ている。札幌市内の企業・団体に「カルチャーナイト」イベントの一環で、北海道新聞が企画した。17日午後

「まわしよみ新聞」 発案者が初の講座

の養成講座には市民や新聞販売店所長、新聞社社員ら約20人が参加し、陸奥さんの手ほどきでまわしよみ新聞を体験した。陸奥さんは「実際にやってみるといろいろな発見がある。まちづくり活動としても広がりがあ。自由にアレンジして楽しんでほしい」と呼びかけた。

同日夜の「まわしよみ新聞体験」には親子連れなど約40人が参加。大人も子供もはさみで新聞を切り抜くことに熱中し、レイアウトや発表の楽しさを味わった。

【11月】▽第1回留萌中旬、留萌高。公開授業Ⅱ山科晶裕教諭(社会)。実践発表Ⅱ旭川市立愛宕東小・佐治麻里子教諭、初山別中・中村拓人教諭

阿部昇秋田大教授



北海道セミナーは、昨秋初めて開催した札幌セミナー

を衣替えし、全道のNIE実践者の交流の場にすることを狙う。

阿部教授は全国学力テストで首位を保つ秋田県でテスト結果の分析を続ける。函館や胆振管内厚真町など道内や全国各地から招かれ、秋田の学力について講演している。

また、秋田県NIE推進協議会会長を務め、7月末に秋田市で開かれたNIE全国大会で「新聞と教育の緊密なかわりには必然——21世紀型学力と民主主義」と題して基調提案した。自分の判断を根拠をもって説明し、物事を批判的に捉えて課題を発見する能力を21世

紀型の学力と位置付け、新聞がそうした新しい学力を育てるのに貢献できるとした。

北海道セミナーでは、全国大会の成果を踏まえながら、秋田県の学力が高い背景やNIEの効果などを語る予定だ。

基調講演を受けたパネル討論は「NIE実践の課題を探る」がテーマ。小中高校の実践教諭として渥美清孝・NIEアドバイザー(釧路市立青野小教諭、高橋恒雄・NIEアドバイザー(小樽市立朝里中教諭、中村大輔・札幌光星高教諭が登壇する。指導主事、大

北海道NIE推進協議会主催の第1回北海道セミナー「子どもの力を伸ばすNIE」が、11月21日(土)、札幌で開かれる。秋田大教育学部化学部阿部昇教授(国語教育)が「新聞は探求型学力を育む学力トップ・秋田からの報告」と題して基調講演を行う。道内の小中高校の教師と指導主事、大学教師によるパネル討論もあり、NIE実践教育の課題を探る。

札幌 阿部秋田大教授が基調講演

11月に初の北海道セミナー

地区セミナー 留萌で初開催

9月以降も北海道NIE推進協議会主催のNIE地区セミナーが、各地で予定されている。当面の日程と内容は次の通り。

【9月】▽第4回北広島・石狩第2部Ⅱ11日(金)、北広島市立西部小。公開授業

【10月】▽第2回土別・上川Ⅱ16日(金)、市立土別中。公開授業Ⅱネチャコフ愛教諭(国語)。実践発表Ⅱ土別小・矢吹弘和教諭、美深高・松田康志教諭▽第10回苦小牧・日胆Ⅱ30日(金)を予定、静内高。公開授業Ⅱ前川保夫教諭(公民)。実践発表Ⅱ教諭2人を予定▽第7回江差・檜山Ⅱ下旬、11月初め、町立江差中。公開授業Ⅱ荒木聡教諭(社会)。実践発表Ⅱ教諭2人を予定

【11月】▽第1回留萌Ⅱ中旬、留萌高。公開授業Ⅱ山科晶裕教諭(社会)。実践発表Ⅱ旭川市立愛宕東小・佐治麻里子教諭、初山別中・中村拓人教諭

学教員にも参加を依頼している。

セミナーは午後1時から4時半まで、札幌市中央区の北海道新聞社2階A会議

室で。入場無料。申し込み・問い合わせは事務局(同社内、☎011・210・5802、ファクス011・210・5826)へ。

工夫を重ね面白授業

北見 オホーツクセミナー 魚の記事使い 考え引き出す

6月26日、北見市立緑小で開かれた第13回NIE北見・オホーツクセミナー(北海道NIE推進協議会主催)では、同校の丸山裕之教諭が5年社会「新聞記事から水産業への関心をもとう」

の授業を公開した。(1面参照)

丸山教諭は自らスコープで撮影した魚のパックの写真を見せ、産地を地図で確認。児童は根室・花咲港のサシマ水揚げ日本一の記事(昨年11月末時点)を読み、気付いたことを書いた。工藤仁志校長が5年生向けに記事の内容をかみ砕いた文章を添え、理解を助けた。

アドバイザーの渋谷渉網走小教諭の進行で行われた研究協議では、良い点と課題を付箋で色分けして書き出した。拡大した授業案に貼りつけた「導入が長い」など、課題が前半に多いこと

が一目で分かった。網走市立第二中の武井翔

「新聞投稿挑戦しよう」

稚内 セミナー 構成を考えて作文

稚内高校では7月16日に第5回NIE稚内・宗谷セミナー(北海道NIE推進協議会主催)を開催。同校の増子優二教諭が公開授業を行った。(1面参照)

当日の北海道新聞の投稿欄「みらい君の広場」に載った稚内高生の作文を参考に、文章を構成する順序、本論、結論を考えさせる内容で、生徒たちは1時間各自の考えを書き上げた。

実践発表は2件。稚内市立富磯小の高橋正一教諭は見出しから内容を予想させる取り組みや朝の会でのスピーチなどを紹介した。北海道教育大釧路校と北海道新聞のNIE共同研究で授業を担当

教諭は家庭学習用ワークシートへの新聞活用、北見北斗高の渥美浩二教諭が30年間発行する英語通信などをテーマに実践を発表した。

小樽市教委が 新聞活用講座

した初山別村立初山別中の中村拓人教諭は、新聞活用の長所と短所を説明。授業に即した記事がない、内容が難しいなどの一方で、「最新の話載っているの」で、疑問が湧き知的好奇心が育まれる」とした。

小樽市教委の授業力向上研修講座「新聞の活用」が7月28日、同市教委で開かれ、道NIE推進協議会から派遣された講師2人が新聞活用の方法などを話した。

同市内の教員27人が参加。北海道新聞社NIE推進センターの上ヶ島精一委員は「新聞を読むと、学力向上につながる」と、新聞活用の効用を強調した。

新聞を切り抜いてワークシートを作る教員ら



続いてNIE実践指定校の札幌市立屯田北小の朝倉一民教諭が長年続けている自らの実践を紹介。その後、参加者がその日の朝刊からワークシートを作る演習にも取り組み、「新聞は手軽に活用できる」と訴えた。

花咲港のサシマ水揚げ日本一を伝える記事を使い、授業を進める丸山裕之教諭(中央)



「遊び」をテーマとした投稿文を指導する増子優二教諭(右端)



編集後記

〇…NIE通信77号をお届けします。本号から編集を担当することになりました。よろしくお願いします。

〇…推進協議会事務局のある北海道新聞NIE推進センターに配属されてほぼ2カ月。活動の必要性、重要性については認識していたつもりでしたが、実際に学校現場で奮闘する先生方にお会いすると、あらためてその努力と成果に目を覚まされる思いです。「やっぱり、新聞には教育に貢献できる力がある」。そう確信する日々です。

〇…一方で、学校教育で時事の話題を取り上げる難しさも感じるこのごろです。18歳選挙権が決まり、高校生には政治の関心を持って自分の判断を持つ力がさらに必要になっているのに、学校には「公平性」「中立性」を過剰に求める雰囲気や押し寄せているようです。さまざまなテーマを自由に論じる場が保証されて初めて、民主主義が育つ。70年前の日本は、それが保証されない国でした。そこに逆戻りするのでしょうか。その先にどんな学校教育があるのでしょうか。(多)